

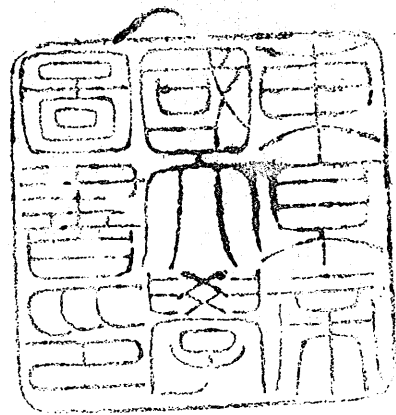
永録

白木屋文書
A 1
8

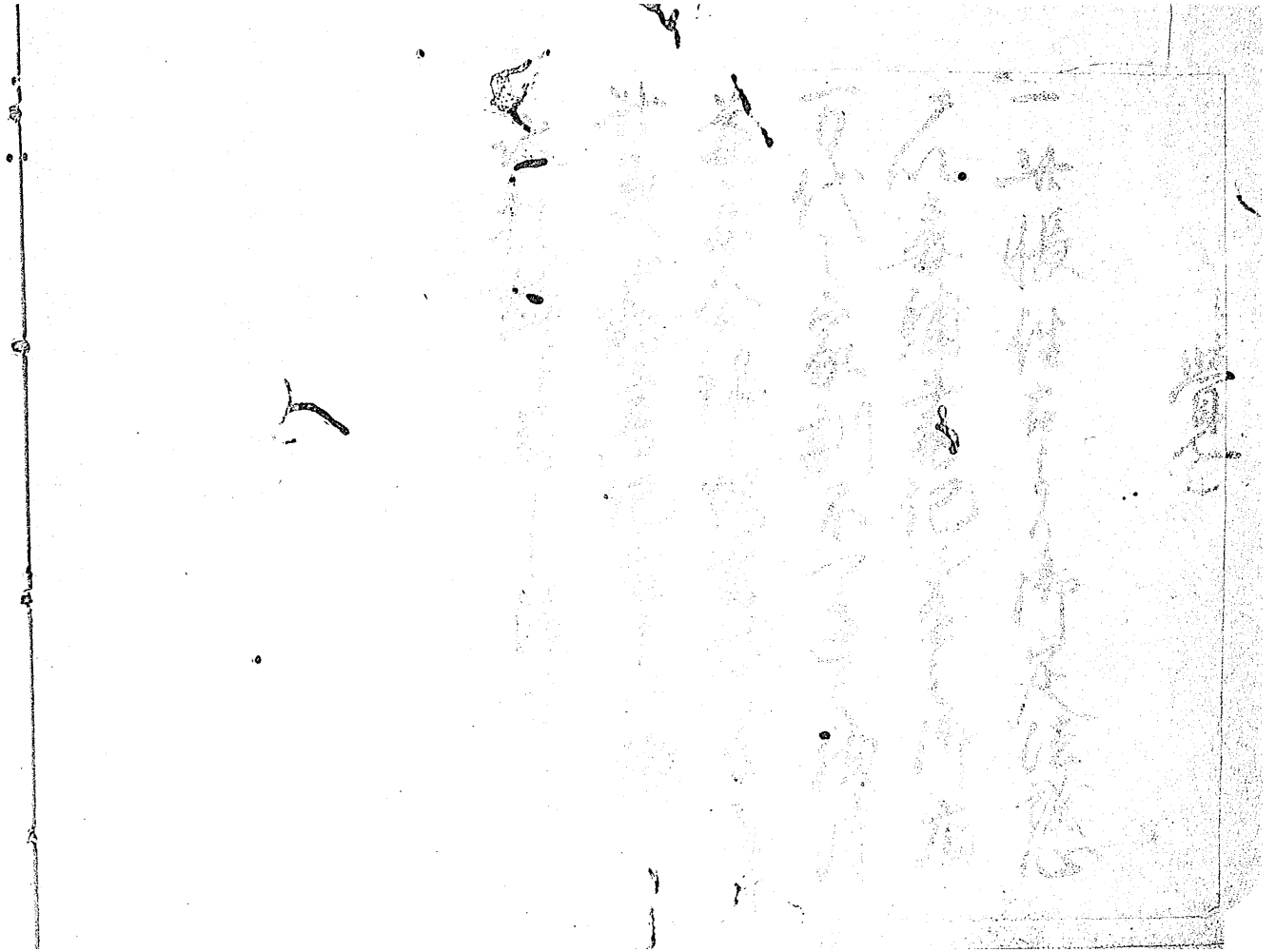
摘 要	年 代	内 容	表 題
		店 提	永 録
		数 量	南 吟 味

東京大学経済学部

文選



27626



意

一、其後性古より佛定法識心
 委補書記に之を佛店五代に
 家訓不て之を佛二月並ふ合
 終る端致之を以て其の粗
 書記並り以て依り永掟録
 後年之規矩に可相成存
 是等之書之重者也

一、去歲中賣高勘定勝負
 今歲之賣高勘定勝負
 下致るは力に勘定勝負日致る

一、残掛近歲時高勘定
 所要之事

一、通海意格
 廿位役人
 致一也之市也

一 多少の限物賞氣を極大切小
致し一山多き方より京宿
成山之人相く言はば接接致
下山際分りて掛帳と稱ふ致
行し山余山たをくしり言ふ意標す

二 現金賣之價何方より買致
時高物高は仲く仲致掛
賣は買合致取下山

但し
現金賣の掛換の氣をいふれく
金廻りゆく何角身も極務直
事一ある極分現金賣之候
下山合致
并
先候思言の無能の合言山事掛
まじ山果お後致賣進中ら酒山

一 諸代口物取扱可傳之致事
代口物扱物扱はははは務は細言
老若に限り候も是氣致致言
子候扱ははは指言し
まきし一山

一 由例格を是神業合言扱致
并
家訓定法意致お守り山

何國の極格致しはる歳を承くの扱と
不用山はは極家行るめど極
免角物と凡くしりく月日致
とくし極致扱致あははは

ふかせしナレキ
青き加藤の内海を

ニダフツ
強没弗か

聖人の心は
廣くあれど

我う〜もれり人ぞ
モカチキ
もろねた

家訓定法に即けし歌の思
ニチチ

目〜事あるを

何事者神先祖如將道意様

ゆきおけしは柳に西車心紙

お節をりし事

二月の高梅のそと後家訓定法
幸くお出さすは

附文

まは陽氣まて人の胸の

こころおぬりのともや 徳老表を

只一心の要領を

信る
君も〜危杯は程々の遠い

そと後信んう致す

吾知識の内縁を

信心は心の丸を

まを身証しては

ちや〜うらり

けしゆ争し感懐の堅固中て
お勤りなり

虎角甲の忠意誠懐ひりあり
人なる界は生きた忠意と知れ思は
奉るべき同いまも

物へ

如来の忠意懐の忠意不群

今ひ國々人なる界は

又い忠意懐ひ能むる

心の思ひも人なる能ひ

オカイ

東不極樂の境界成道

父の忠は頂法山より高

母の忠はあふるの底より深

又親の春育小外お慈の人

お勤下うらけい忠意なり

又親おけ者らとをな

鳥は林おけ親鳥のる枝六

子鳥はふるるその下枝お勤り

鳥は親の忠はあ志

主人の忠意とん我者一々の

後世毎樂善せけい忠意を

我えい至のる小け命を

主人の忠意とんやをな

後のおまられける人の後

大切う勤事

帥の忠告を以て承事し是
等の自由を致すべしと
多し一男の帥と云ふも
多末を致る猶也

何事者や是れ命地事れく
夫の真加うも悦の

ホフユウ

フ一 中夜の交際切て致は事

と致致い下致致人の忠告
見ては是と殊め我又是と鐘
平ふ小海か魚

附より
と下の各別お致言也

フ一 高月用おんは格格を

規維悵讀るまかり

規維悵を思おんは格格を

格別は格格を思おんは格格を

格格を思おんは格格を

春一 正月の日の暮將奈龍光

多しは格格又是よりは定格格
多しは格格小改格人より格格
多しは格格

格格又は格格格格格格格
格格格格格格格格格格格
今も格格格格格格格格格

つ一 鹿中令殺借貸かか事

也そ者を用てあふ

若一んゆ遠鹿杯るあも事

借貸るあふは双方たあ

あふ

つ一 月介た大酒あは事一を用は

酒春は條は右定法春あは

之拾歳あは月は法あは事

物あは歳あは鹿あは酒

酒あははあはあは酒法あは

中伏那あは事

但一

酒は經命のえとそ酒あは

酒と女は方の敵と思はる

酒春あはあは親あはあは

事あは大酒あはは親あは

酒

酒の多量那事そのあは

酒初あは酒は春あは酒

春あは酒あは酒あは酒

あは酒あは酒あは酒

酒あは酒あは酒あは

一

一 法人は全般法人非

人法合は縁起非なる事

多し人法合は縁起非なる事

由て縁起非なる事

自他を推し合ふ縁起非

おれ共は一人し事

事用は一人の事

事外は事用は事用

他

同様は事用は事用

一 他は縁起非なる事

おれ共は事用

附文

公用私用の懸念

おれ共は事用

他は縁起非なる事

由て縁起非なる事

公用は事用は事用

事用は事用

他は縁起非なる事

同様は事用は事用

つ一 地味縁を求所と見せ給
事

吾も之を不用とす

附より

と申すは、此の所を極理極平極

意中多きこと、物事即ち

求極平極意は極如き所は極

欲と極事と

を以て之取と致すは、何用を

おぼせ給極理極平極意の

は、心之の極をおぼせし



つ一 今亦言今も信用事

前も在余慶と成り又の事

扱の事意は極如法合はる

従以て成るお知しとて信用

と致事

つ一 幸々今銀帳中致し事

附より

御視箱より挿子(白)の

ぬき入る事、今申

自然挿子と申すは、海に出

る夜の山番尻に役、七知と

入望之程と致し、是より申す

て候の事、或自分より申す

春

一役書之旨は亦之秋候旨の

附あり

人々役書候はて先役候より
何角の候は行渡之旨は程又
後役之旨は始は後候候に
事ははたかき候は亦其内務は
その得承お改交之旨は別
候向は候採之旨大切の事候
程は可候は後之旨は

并

自書候之旨は亦之旨は
之旨は之旨は亦之旨は

之旨は

フ

一 志用物何の役書と

一 垂候附之旨は自書之役書に

持来之旨は

附あり

是法之旨は在類中乃自書
持来之旨は亦之旨は亦
何角の旨は亦之旨は亦

并

是法之旨は亦之旨は亦
亦法之旨は亦之旨は亦
之旨は亦之旨は亦

銀細工物 黄燧漆
黄鼻洩 了方用也

主介
信代 物出切未可也

了方用也

系藏物に夜款活付常置
常置は物に用

信

桂皮末をよりの香りに
氣を痛くする物常置
おのを居りしに何事者
山並みは宜し

一他所へ流用は信行

信行は用也

附より

大家に出入流の事
信用は正に信用也
近年は信行

秋菱春

一申出流出立之初見送
余は申中橋限也

附より

中倉へ流別物並に
山並み先格し是も同也
了方用

并
中堂定筆家信はいつて之を
手紙に主介作く之を
挨拶す候也

他一
仕向定まらん所採自採まらん
乃布一何角海切りの候也
自來定まらん所採自採まらん
以乃定何角定まらん所採
海切りの候也

東邦海軍一政役之者
と信は之を中へいつて
自向之不習に中へいつて
之を

京大板海軍中隊部
乃お妙なり候也

秋菱春

一
一
一

附より
夜類は候その格式が下
候也

以振寄り候又一の格式
候也

并
歳着加え候は為る
足踏す候也

多しと信は之を
之を

二 自分利用并左記表の五次徴
金現金金にお計りしり治文
車版虫お源役属現金金
系に費し

但一
の毎達言はるる一は
同様しる中一も金賞現金
以る中一も中一は候
何事一も一毎達しる中
下

一 役所掛一件に候書
候りし

先
青柳徳次郎言候文
同様式に思ひ候書
主外ありし事
記しし役所一候書
同

2- 貴姓の合致致す事の候
承り留置り申上

附より

自他意の持たぬ意の挨拶
未済より申上
又はその御性存候事

承り申上

承り申上
承り申上

先づ申上
承り申上

春

一

一文書合し
貴姓の御性存候事

附より

承り申上
承り申上

承り申上
承り申上

但

承り申上
承り申上

ついで利尻大店の代り物敷き
事を用ふ

所より
代り物の通しを以ては
多敷金も海に
延引物も積荷も
うらま

并

地所へ代り物の仕舞
事を用ふ事とて子持
うらま

ついで所より使
子持とては事
事を用ふ

所より
代り物の通しを以ては
多敷金も海に
延引物も積荷も
うらま

所より
代り物の通しを以ては
多敷金も海に
延引物も積荷も
うらま

并
此階層編五卷。意欲以九
卷之書。如一事。以所
正以階層高。內以
町方。得。意。所。階。階。之。所
既。後。在。第。二。卷。中。見。有。多。事
夫。在。第。二。卷。中。見。有。多。事
格。別

男。使。及。其。所。解。以。後。其。事。已
了。山

得。意。先。上。使。以。後。其。事。已
了。山

在。第。二。卷。中。見。有。多。事
格。別

之。知。也

二
每。既。神。定。意。下。第。卷
見。賣。高。亦。有。如。情。之。後。也

附。了。一
賣。意。既。後。所。之。第。二。卷。中
見。有。多。事。在。第。二。卷。中。見。有。多。事

神。定。意。下。第。卷
在。第。二。卷。中。見。有。多。事

并
有。性。意。上。第。二。卷。中。見。有。多。事
有。性。意。上。第。二。卷。中。見。有。多。事
高。內。用。事。也。也。也。

一 意欲は性意附物に事
引伸と云ふべからず

附より
意欲は附物に依りて生ず
附物に依らざる意欲は

并に
意欲は附物に依らざる意欲は
中より生ずる意欲は
遠入附りの意欲は

但し

性意附役之人の意欲
亦して性意附役の
意欲に同するは

性意附役の意欲は
源より

世に凡そ日頃より
徳教も流るるに

海の内なる意欲は
情も亦て性意に

通性あり

二 増意先下在成の事送書
由て家系を言及先願其取の
家系書記を記す

但し

何處何處指す

何處何處と

并に
増意と増取は同義なり
其の増取は増意の事なり
此の増取は増意の事なり
増意は増取の事なり
増取は増意の事なり

二人の増意の事

増意の事

増あり

増意 増取 神に在

増意 増取 増取

増意

増意 増取 増取

増意 増取

増意 増取 増取

増意 増取 増取

増意 増取 増取

五宗一原法華合ははははは
まはまはははははははははは
大勢の書友の中の中の中の中
他は那おははははははははは

別一 東部高田町三軒下向原

まははははははははははははは
おままままままままままま

うま

あま

清なる事 蘭州おははは

まははははは

フ一月並年合并年合はははは

急度おままままままま

あま
退あまままままままま

まははははははははははは

あま

夜番しあまままままま

夜番しあまままままま

あま

あままままままままま

あまままま

フ一 物言目人勢掃除蚊の意ハ
除名竹屋の意ハ

附より
仕廻おんくしを所置よ

并
或階番原二階竹屋の意ハ

志者控はる物色僅儀
の意ハ

腰子の襦袢手運仕廻りよ

フ一 巾箱の意ハ
附より
手紙の意ハ

附より
手紙の意ハ
指別指毛の意ハ
手紙の意ハ

フ一 巾箱の意ハ
附より
手紙の意ハ

附より
手紙の意ハ
見せしむる町紙の意ハ
性る記の意ハ

并
今更に其の善を其の性也
其の心も其の性也

二利調用心常の性也

所より

始に其の心も其の性也

此の心也

先其の性也其の性也

其の心も其の性也

上得たも其の性也

其の性も其の性也

何れも其の性也

其の性も其の性也

其の性も其の性也

其の性也

其の性も其の性也

其の性も其の性也

其の性も其の性也

其の性も其の性也

其の性も其の性也

其の性也

其の性も其の性也

其の性も其の性也

二 深物帳と浅物帳
折と改定引よの帳
改定引よの帳

并
賣帳引よの帳
引よの帳

帳引よの帳
引よの帳

引よの帳
引よの帳
引よの帳

一 賣帳引よの帳

引よの帳

引よの帳

引よの帳

引よの帳

引よの帳

草一 晴日 既 舟を出たら 柳の
帳をくわひ 紅糸の

所より

三月 一 舟を 出たら 柳の

帳を くわひ 紅糸の

春一 舟は 須梅 氣掛る 儀

前より 夫より 先 柳の 氣

と 言ふ こと あり

所より

舟は 須梅 氣掛る 儀

舟は 須梅 氣掛る 儀
前より 夫より 先 柳の 氣

東大・経済
白木屋文書
A1
8

味谷冊